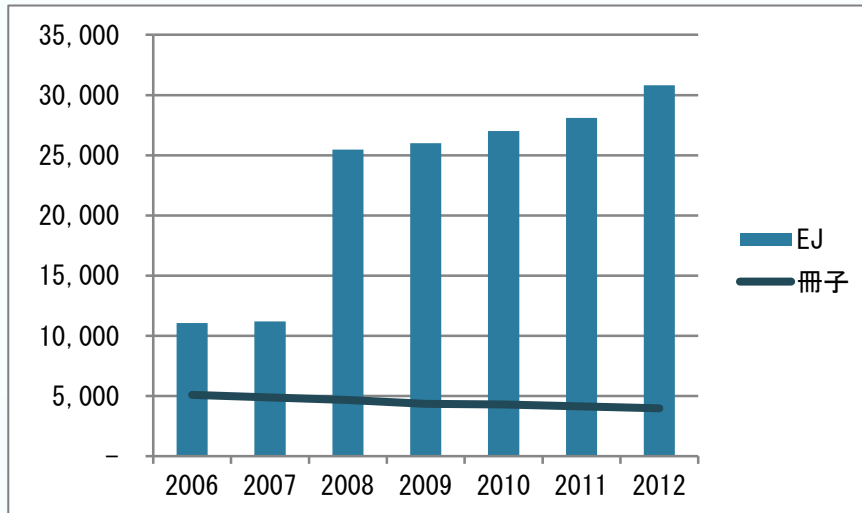


京都大学における Eリソース管理の現状と課題

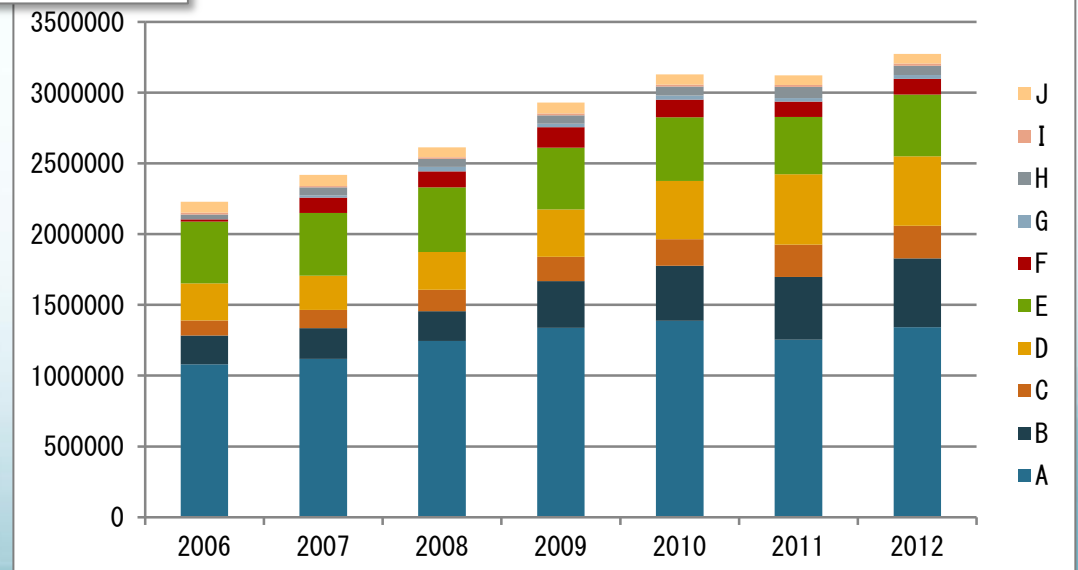
京都大学附属図書館
情報管理課雑誌情報掛
塩野真弓

EJの統計(京都大学)

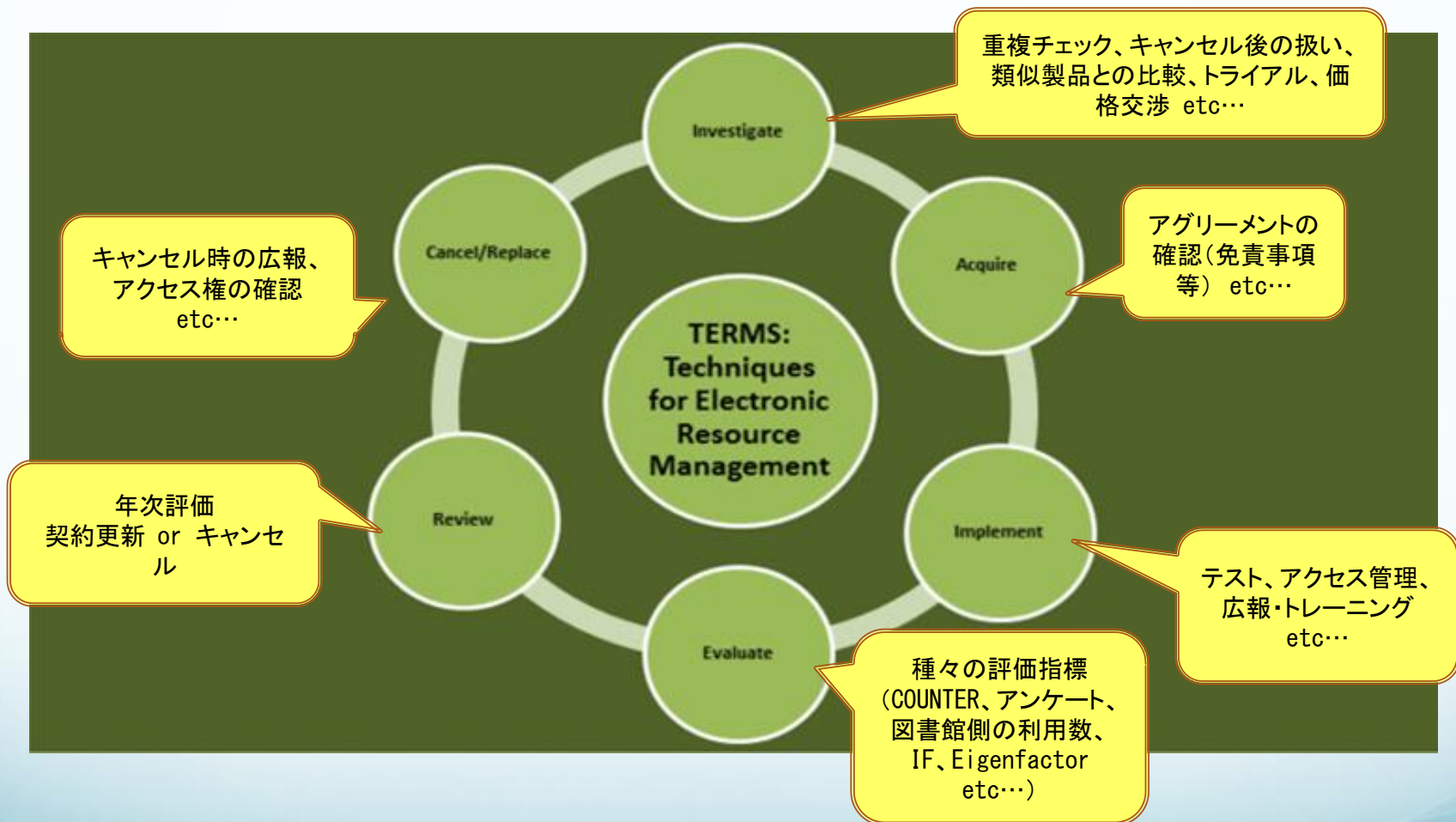


EJタイトル数+冊子の購入数の推移

EJ主要10社のアクセス数(COUNTER JR1)



Eリソース管理フロー



Emery, Jill and Stone, Graham (2013) *Developing TERMS: techniques for electronic resource management*. In: 8th Annual Electronic Resources & Libraries Conference, University of Texas at Austin, 17-20 March 2013. より図に加筆

Eリソース:ナビゲート機能

Serials Solutions社 360シリーズの導入

- 2006.4～ 360 CORE
京都大学電子ジャーナルリストの提供
- 2006.4～ 360Link
リンクリゾルバの導入
- 2008.10～ OPACにEJ/EBの書誌投入

Eリソースへのスムーズなナビゲート、安定的な提供

⇒リソースの費用対効果:最大を目指す

Eリソース：管理機能

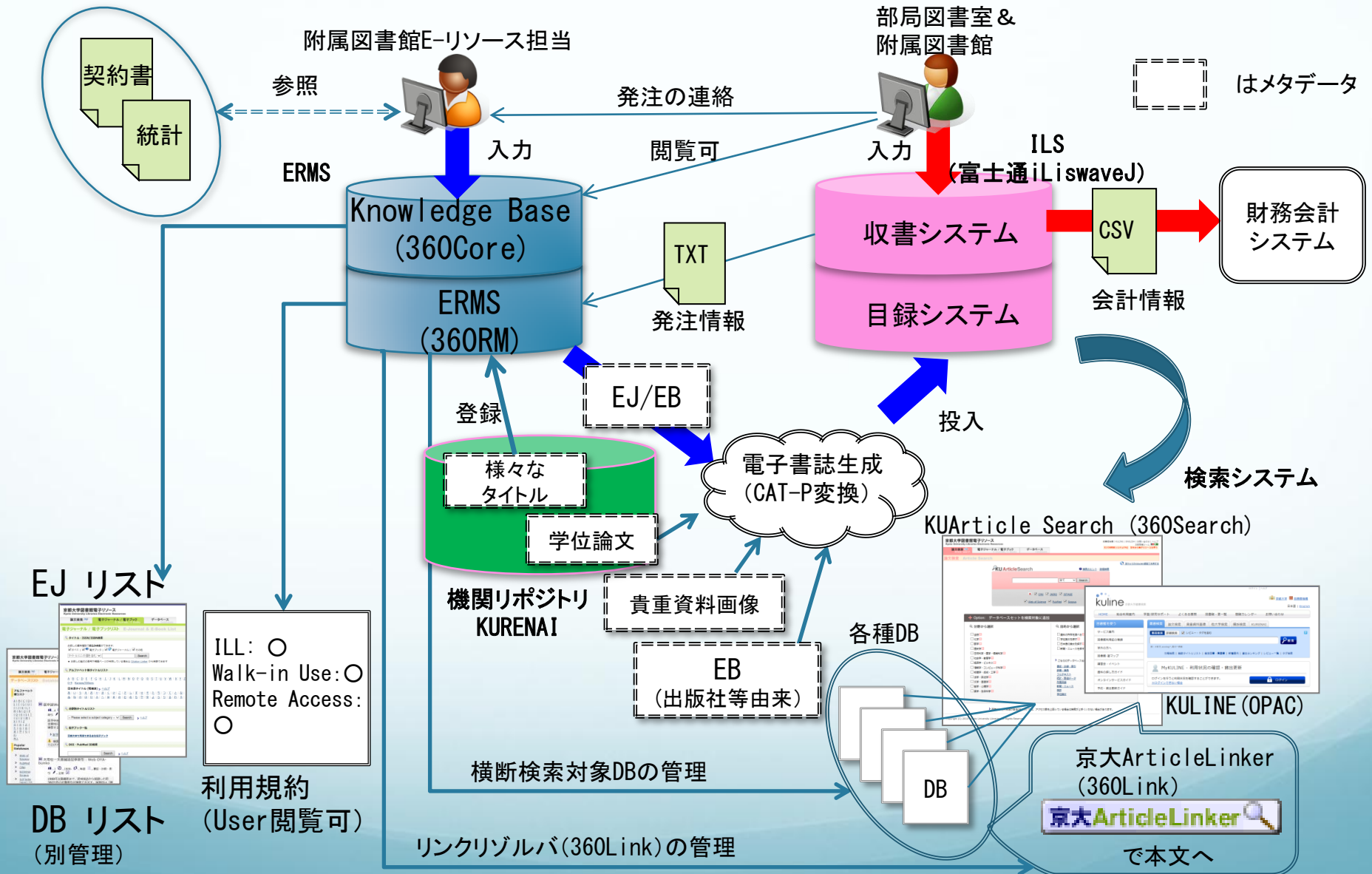
- 2007.6 ~ 360 Resource Manager 導入(含:トライアル)
 - 契約/ライセンス管理
 - 価格情報管理
 - 管理者情報管理
 - アクセス管理
 - 利用サポート(ユーザーへのお知らせ機能)

データの集約、蓄積⇒共有を可能に

Knowledge Base

- Knowledge Baseを中心としたEリソース管理
基本的なメタデータのみ収集(タイトル、アクセス可能範囲、プロバイダ、URL・・・)
- パッケージを契約単位でプロセスできる
- 世界中で収集された最新のデータを利用できる

京都大学のEリソース管理(図)



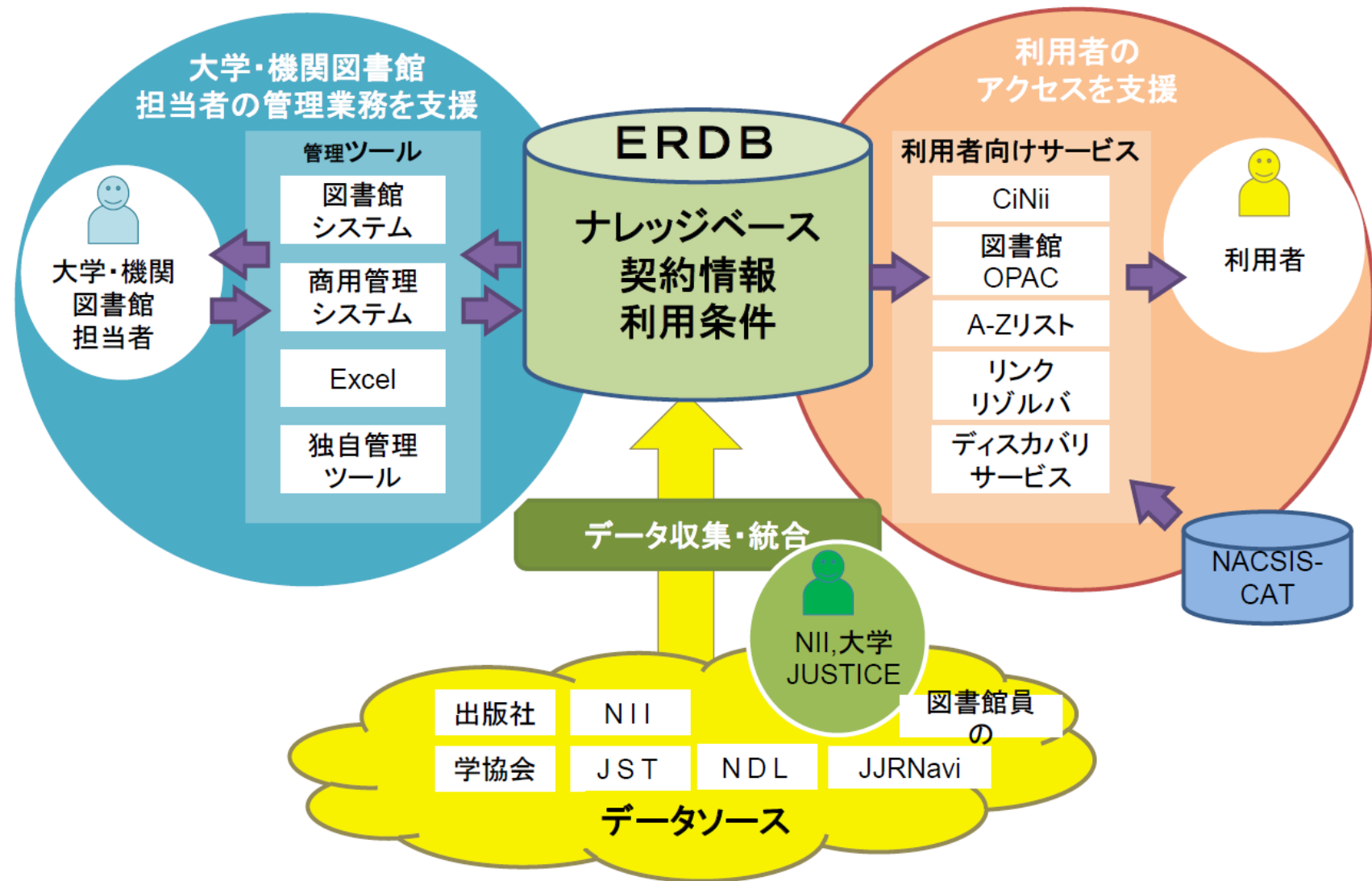
問題点：メタデータ(1)

- メタデータの不足
 - 特にOAや国内のタイトル
 - ライセンスの入力の手間。出版社によって表現がばらばら。
⇒ERDBプロトタイプ構築プロジェクトで一部改善？
- 購読以外のもの(個人登録すると読める、論文レンタル等)に未対応

ERDBプロトタイプ構築プロジェクト

- NACSIS-CATのEリソース版
- ライセンス、JUSTICEや国内のメタデータが集約される
- 各館の契約情報を集約する可能性も
（各大学の情報をどこまで登録するか未定）

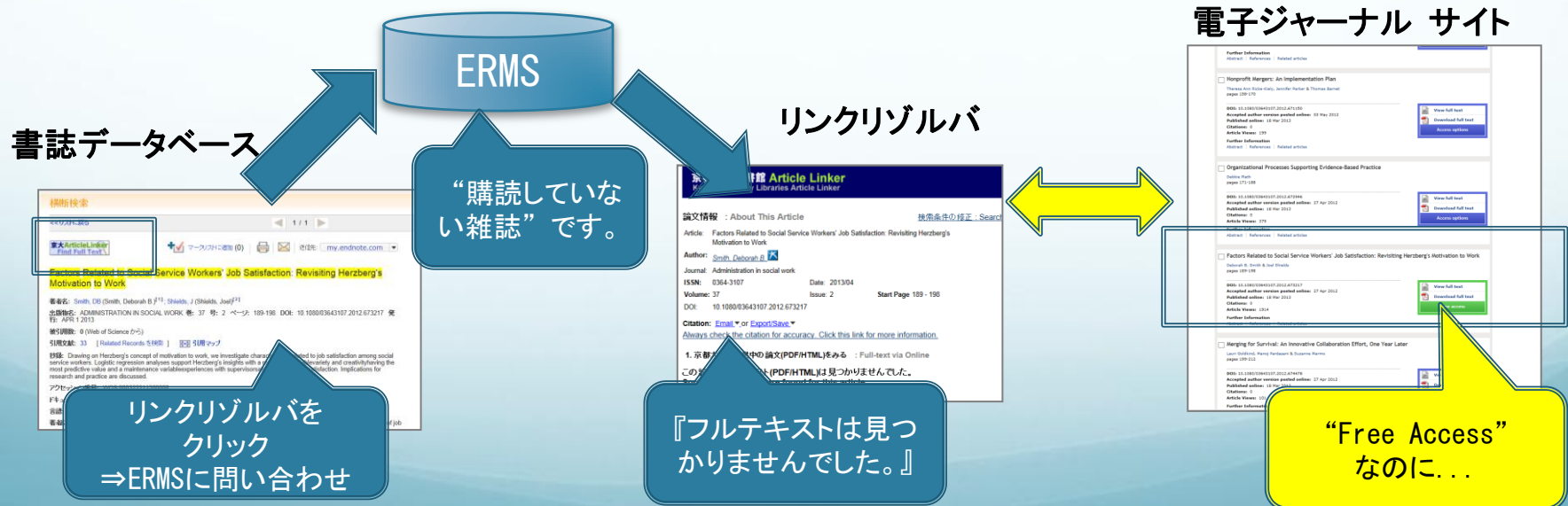
ERDBとは



第15回図書館総合展「ERDBは何を変えるのか - NIIと大学の連携によるERDBプロジェクトが狙うこと」
(2013年10月30日) 高橋菜奈子氏(国立情報学研究所)発表資料

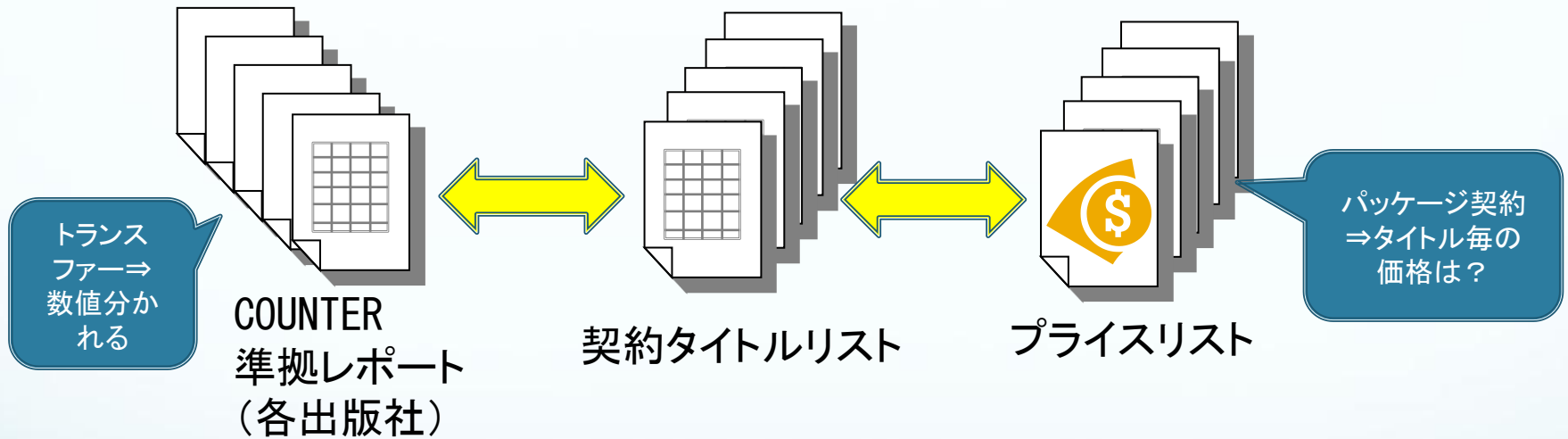
問題点：メタデータ(2)

- メタデータの粒度
基本、Title単位。Article単位のメタデータはない。
 - Hybrid OA Journalにナビゲートできていない。
 - 機関リポジトリのTitle単位データを別途作る必要がある。



問題点:リソースの評価

- Cost Per Useの計算が困難(統計ツールは未導入)



- ISSNはキーにならない。
- できるだけ多くの過程に統一のIDがほしい。

問題点：リソースの評価

- OAジャーナルの評価
 - APCの額を把握していないため、購読タイトルとの比較ができない。
 - 特にHybrid OAの場合、Article単位の利用統計が必要
PIRUS(Publisher and Institutional Repository Usage Statistics)
- その他の評価基準 - 何を採用するか

参考文献

- 渡邊英理子, 香川朋子. 図書館におけるナレッジベース活用の拡がりとKBARTの役割. カレントアウェアネス. 2012, (314), CA1784, p. 14-17.
<http://current.ndl.go.jp/ca1784>
- 香川朋子. 九州大学の取り組みから見た必要な情報基盤. NIIオープンハウス 2012-6-8.
http://www.nii.ac.jp/content/event/2012/pdf/5_kagawa.pdf
- 渡邊英理子. 第118回 ku-librarians勉強会. 電子リソース管理業務の舞台裏 : ERMSを中心とした電子リソース管理 / アクセス環境の整備.
<http://kulibrarians.g.hatena.ne.jp/kulibrarians/20091211/1290514353>
- TERMS: Techniques for ER Management
<http://6terms.tumblr.com/>
- 次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業 ERDB
<http://www.nii.ac.jp/content/erdb/>